

しがだい



滋賀大学YouTubeチャンネル更新中!

本学の独自の教育や先進的な取り組みを、公式YouTubeで発信しています。このほか、年2回発行の広報誌では紹介しきれない大学のトピック、学生たちの日々の活動紹介、卒業生からのメッセージなどお届けしています。ぜひご覧ください。



滋賀大学のホットなニュースをお届け
1分でわかる! SHIGADAI Weekly News



滋賀大学の先進的な取り組みを紹介
SHIGADAI Challenge



豊かな人間性と創造力・構想力を培う
滋賀大学のリベラルアーツ教育

動画は
こちらから



大学施設等を対象とした
ネーミングライツ事業を
実施しています。



滋賀大学広報誌 Vol.63

しがだい

[発行日] 2026年6月
[発行] 国立大学法人 滋賀大学
[編集] 滋賀大学広報部会

滋賀大学総務課
〒522-8522 彦根市馬場1丁目1番1号
TEL 0749-27-7524
E-mail koho@biwako.shiga-u.ac.jp



アンケートのお願い
「しがだい」のより充実した誌面づくりのために、
Webアンケートのご協力をお願いいたします。



大学公式キャラクター **カモンちゃん**
日本の開国を主導した井伊直弼公がモチーフ。名前は直弼公の官位、掃部頭(かもんのかみ)に由来していることに加え、滋賀大学に“come on”という意味も掛けられています。本学学生が在学中に取り組み、生み出されました。

企業とともにデータ社会を牽引

データサイエンス・AIイノベーション研究推進センター10周年



彦根キャンパス 校舎棟



学長室にて

滋賀大学長 竹村 彰通

Profile

1952年生まれ。1976年東京大学経済学部卒業、1978年東京大学大学院経済学研究科理論経済学・経済史学専門課程修士課程修了。米国スタンフォード大学統計学部客員助教授、米国パーデュー大学統計学部客員助教授、東京大学経済学部教授、東京大学大学院情報理工学系研究科教授を経て、2015年5月滋賀大学に就任。2017年4月から滋賀大学データサイエンス学部長、2022年4月から現職。

学長メッセージ

滋賀大学の新たな発展をめざす 産学連携強化

「AIネイティブ大学」として社会で活躍できる人材を育成

私はこの4月より6年間の任期で学長に再任されました。長い任期を無事に務められるか不安もありますが、この機会を皆さんからいただいたチャンスと考え、大学の大胆な改革を進めようと思っています。日本では急激な少子化が進んでおり、2025年の出生数は70万人を下回りました。現在の18歳人口は110万人程度ですから、18年後には現在から3割以上の減少となり、今後日本の大学も大きな再編成の波に見舞われることになると思います。国立大学は社会のインフラであり、国立大学全体の重要性を継続的に訴えていく必要がありますが、一口に国立大学と言っても各大学の状況はさまざまであり、私たちは滋賀大学自身の独自の戦略を策定し、改革を加速させていく必要があります。

そのような戦略の中で一つの重要な柱が産学連携です。滋賀大学の収入の半分以上は国からの運営費交付金です。国が設置した国立大学ですから、国からの財政支援は当然のことではありますが、日本の急速な高齢化の中で、政府支出に占める社会保障費は増加の一途をたどっており、財政赤字が深刻となっています。そのような中で政府支出

による若い世代への十分な投資も困難な状況になっています。したがって、大学には民間からのサポートを得る努力が求められています。学長としての新しい任期にあたり、まずは産学連携の強化を重視しています。

大学の教育においても、社会が求める人材の育成に重点をおいた改革を進める必要があります。特に最近の生成AI技術の急速な発展のなかで、生成AIを活用できる人材が求められています。今年の1月の大学入学共通テストでは、生成AIがほぼ満点をとるまでに性能が向上してきました。このような能力を持った生成AIが大学教育に及ぼす影響は非常に大きいものです。また、生成AIが注目されている一つの理由として、文章、画像、音楽といったアートの領域でもすぐれた性能を発揮していることがあげられます。滋賀大学では昨年の4月に全国の大学に先駆けてOpenAI社のChatGPTの大学版を正式に導入しました。さらに国産の生成AIの導入も進め、データサイエンスに加えてリベラルアーツ教育を強化します。この方針を「AIネイティブ大学」という標語で表し、他大学のモデルになる教育を進めていきます。

Contents

学長メッセージ

01 滋賀大学の新たな発展をめざす産学連携強化

滋賀大学長 竹村 彰通

巻頭特集

03 データサイエンス・ AIイノベーション 研究推進センター10周年

07 世界で注目！ 経営分析学専攻=MBANで切り拓く、 これからのキャリア

09 しがだいChallengers

卒業生インタビュー

11 輝く卒業生たち

湖南省立三雲小学校 矢田 仁さん
株式会社ARISE analytics 石塚 諒一さん
独立行政法人国際協力機構(JICA) 渡辺 太陽さん

研究者インタビュー

14 活躍する研究者たち

データサイエンス学部 笛田 薫教授

国際交流

15 滋賀から海外へ 留学体験記

16 CLUB & CIRCLE

クラブ&サークル

17 ニュース&トピックス

18 滋賀大学へ ご支援のお願い

学生広報サポートチーム活躍中！
記事企画と制作(P14)、SNSでの情報発信など、
大学の広報活動を学生目線でサポートしています。
一緒に活動したい方は本学HPをご覧ください。



琵琶湖疏水

先駆者として変革に挑んだ10年 3学部と企業でこれからのデータ社会を牽引

日本のデータサイエンス・AIの教育・研究を牽引し、数多くの企業や自治体との社会実装を実現してきた「滋賀大学データサイエンス・AIイノベーション研究推進センター」が、設立10周年を迎えました。そこで竹村彰通学長と、川崎茂特別招聘教授が、10年の成果とこれからの展望を語り合いました。



センターについて

前身である教育研究組織「データサイエンス教育研究センター」の活動拡大に伴い、2022年4月改編し現組織に。「先端研究部門」「データ駆動型教育研究部門」「DS調査・情報発信部門」「価値創造プロジェクト部門」「社会調査・EBPM部門」の5部門を配置し、データサイエンス学部、経済学部、教育学部の3学部と連携し、データサイエンスとAIの先端研究の推進、データサイエンス人材の育成、データサイエンスの社会実装を行う。センターの研究員は滋賀大学の教員だけでなく、さまざまな専門性を有する企業の社員や他大学の教員も多く在籍。

PROFILE

竹村 彰通 滋賀大学長



川崎 茂さん

総務省統計局局長、同省統計研究研修所所長を務めた後、日本大学経済学部教授を経て、滋賀大学データサイエンス・AIイノベーション研究推進センター特別招聘教授に着任。一般財団法人日本統計協会理事長、月刊『統計』編集委員長



はじめはデータサイエンス教育カリキュラムの設計から

竹村 センターの前身である「データサイエンス教育研究センター」は、滋賀大学にデータサイエンス学部が設立される前年の2016年に開設しました。2017年4月にデータサイエンス学部が本学に開設されることを耳にされた時、川崎先生はどのように感じられましたか。

川崎 あの時本当に感激しました。今でこそ「データサイエンス」という言葉も社会に定着していますが、当時は斬新な概念でした。ビッグデータが注目され始めた2010年頃を転機としてデータサイエンスが脚光を浴び始めたと思います。一方、日本の大学には統計専門の学部がないなど、この面で欧米に後れを取っているのではないかと強い危機感を抱いていました。滋賀大学がデータサイエンスを正面に掲げ、しかもこの分野で深い知識と洞察をお持ちの竹村学長が先頭に立ってリードしておられることを心強く感じました。

竹村 滋賀大学、そして日本にデータサイエンスの教育・研究機関が必要であると立ち上がったのは、佐和隆光第12代滋賀大学長です。私は佐和先生の志のもと準備を進めました。そうして開設したのが「データサイエンス教育研究センター」です。当初のセンターの役割は、データサイエンスをどう教えるべきかという教育カリキュラムの設計でした。その後、学部では学生の教育を、センターでは研究と社会連携をという役割分担がなされ、実学と実装の両輪による体制を確立できたことが、この10年の大きな成果の一つです。

連携先と共に課題に取り組み実装、検証まで伴走

川崎 2022年に「データサイエンス・AIイノベーション研究推進センター」と名称を変更した現センターは、産官学連携と社会実装が最大の強みで、多方面にイン

パクトを与えていると感じます。この産官学連携は、前身のデータサイエンス教育研究センター設立当初から、竹村学長が数多くの企業に連携を働きかけ、尽力されたとお聞きしています。

竹村 産官学連携を進めたのは、学生の学びの場、教員・研究者の活躍の場にするにはもちろん、センターの役割として、協働によって成果を上げることを目標に掲げていたためです。データサイエンスは実学の側面が強い分野であり、データをどう分析し、実装するかが重要ですから。

川崎 私が編集長を務める月刊『統計』では、センターの連携プロジェクトを紹介する連載を行っていました(2025年4月号～2026年3月号)。どの連携先の声を見ても、データサイエンスのパイオニアである滋賀大学への信頼に加え、実装後の成果や社会的な価値に対する満足度が高いと感じました。連携先の課題を共に考え、分析とその結果をもとに実装、検証と伴走していく姿勢が評価の理由です。

竹村 連載を拝読して、社会が求めるデータ活用にセンターが応え、大きく花開いていることをうれしく思います。

川崎 事例を一つ挙げると、損害保険会社のデータ活用があります。これまで損保のデータ活用は、アクチュアリー※が事故発生率などのリスクを分析・評価し、事故を起こしていない人ほど保険料が下がる保険商品の設計に主眼が置かれてきました。しかしこの事例では、データから事故リスクの高いエリアを抽出し、自治体の安全対策への活用などもめざしています。視点を変えればデータは事故を減らすためにも活用できることを示しました。

竹村 川崎先生が例に挙げてくださったとおり、データは企業の業績などに直接役立つだけでなく、社会に還元できる可能性と価値を持っています。

川崎 まさにセンターがデータサイエンスと研究者、企業や自治体、そして社会をつなぐ成果ですね。こういった「ハブ」としての役割を担ってきた強みを活かし、



学内に構築されたノウハウを、枠組みを超えて横断的に活用していけば、1プラス1が2以上の価値をもたらすと思います。

竹村 おっしゃるとおりです。大学組織であるセンターがハブとなることは公共性や中立性を担保できますし、オープンイノベーション的な役割を果たしていくこともセンターの重要な使命です。

川崎 センターを中心にデータ活用が一段と広がっていくことに期待が高まります。

竹村 開かれたセンターという点では、設立当初からリカレント教育にも力を入れてきました。第1弾がトヨタグループにおける、エンジニアがデータを活用するための研修プログラムです。この10年、データ活用に秀でたエンジニアを育成し、現在も「データサイエンス実践道場」として継続しています。データを活用できる人材ニーズが高まる中、それに応えることも社会への還元と貢献になります。データサイエンス学部や研究科、センターで知見を得た専門家が企業や自治体等での活躍によって、社会の発展も推進できるからです。

川崎 私は官庁出身ですが、デジタル庁設立に象徴されるように、政府内にもデータを専門に扱う体制と人材が整いつつあります。こうした日本の動向からも、研究活動や社会実装、人材育成などにおいてセンターが果たす役割は非常に大きいと思います。

※統計等の手法を用いて保険料率や支払保険金を算出する専門職。

数字で見る10年 (数値は2026年2月時点)

536件

これまでの連携数。初年度の21件から始まり、10年間で25倍以上に拡大しました。現在は60近い自治体等(中央官庁、府県、市町)や幅広い業種の企業と連携し、データサイエンスとAIを軸にした共同研究、教育提供などを行っています。その活動は、毎年発行しているセンター誌「Data Science View」で紹介しています。

55名

設立時には10名だった当センターの研究者は、現在、データサイエンス学部とセンター専任教員の55名体制。多種多様な分野の専門家が在籍しています。さらに学内他学部や、学外の第一線で活躍する方々を研究員として迎え、その総数は150名以上にも。当学術領域では、国内最大級規模の研究拠点となっています。

150,752名

設立初期から文部科学省「数理及びデータサイエンスに係る教育強化の拠点校」6拠点の1校に選ばれ、全国の大学生を中心に幅広い世代に向けたデータサイエンスリテラシー教育に取り組んできました。その一つがオンライン教材MOOCの作成と開講です。現在18講座、のべ15万名以上の受講者を数えます。



データサイエンス学部、経済学部、教育学部が連携して研究

竹村 滋賀大学は全学で「文理融合」を掲げています。複雑化する社会課題解決のためには、特定の専攻分野だけを探究するのではなく、多分野の知見に触れ、さまざまな角度から物事を考えられる柔軟な創造的思考が必要だからです。この文理融合、そして柔軟な創造的思考はセンターでも大切にしていることで、研究にはデータサイエンス学部だけでなく、経済学部、教育学部の教員も研究員として加わり、分野を横断した研究が多数進行しています。

川崎 滋賀県教育委員会とは、県内の小中学校で行われた学力調査のデータを分析し、学習到達度などの背景要因や個々に応じた指導法などを探る研究を行っておられますが、これは教育学部との連携によるものでしたね。滋賀大学経済学部附属史料館で保管されている国宝「菅浦文書」にある署名者不明の花押を特定する研究もユニークです。「文理融合」はもちろんのこと、3学部の「学学連携」とでも言うのでしょうか、データサイエンスによって学問を複合的に融合させていく研究ができることもセンターの魅力だと思います。

竹村 「学学連携」の言葉をお借りすると、滋賀大学は2023年に国立音楽大学と、

データサイエンスの教育や研究に関する連携協定を締結しました。これまで経験や感性に頼っていた音楽の練習、演奏をデータによって分析し、技術の向上に役立てる研究を進めています。

川崎 芸術的な活動や人の感性をデータに基づいてロジックで解明していけば、新たな発想や創作につながると思います。

竹村 さらに驚異的に進化する生成AIの研究にもつながります。音楽を作る、絵を描くといった創作や創造は感性を持った人間にしかできないと考えられてきましたが、今や生成AIが人間を超えるような作品を生み出しています。川崎先生がおっしゃるようにデータで感性を分析すれば、これまで計り知れなかった人間の本質の理解にもつながるのではないのでしょうか。

川崎 私自身、時折、生成AIを利用することがありますが、信頼性という面ではまだまだ疑問や不安を感じている部分があります。センターがデータサイエンスの知見をもとに、アートという感性の領域において生成AIを研究していくことは学術的にも意義があると思います。

フロントランナーとして 新たな価値を生み出す存在に

竹村 現在、センターにはさまざまなバックグラウンドを持つ100名規模の研究者が集い、日本の大学では最大規模の研究拠点に成長しました。この10年で蓄積してきた知見や社会実装の成果もベースに、じっくり腰を据えたアカデミックな研究にも一層力を入れていきます。その一つがセンターの先端研究部門に新たに設立された「先端因果推論特別研究チーム」での研究です。因果推論は、複雑な現象の

背後にある因果メカニズムを解明するための方法論の一つです。これを駆使して、AIの信頼性、生成AIとの融合といった多様な理論研究を推進し、応用研究や社会課題解決にもつなげる、次世代の“知”を築いていくことが目的です。

川崎 統計学・データサイエンスの普及と発達は今日の社会の重要課題です。竹村学長はかつて日本統計学会の会長を務め、「統計検定」の資格制度の創設にも尽力されました。私もそのあと、同様の問題意識を持って同学会の会長を務めました。統計学はデータから知見を獲得するために不可欠な学問です。敷居が高い、難解と敬遠されてしまうこともありましたが、「データサイエンス」というインパクトあるワードもあって注目されています。現在は国内の多くの大学でデータサイエンスの学部や研究機関の設置が増えています。これからますます社会に必要なことは言うまでもありません。データサイエンスは、専門家だけではなく、社会人すべてに必須の知識・スキルだと思います。そうした中で、このセンターと滋賀大学データサイエンス学部・研究科は、教育・研究、実装とあらゆる面で先頭を走り、唯一無二の存在であり続けています。

竹村 データサイエンスはセンターを設立した10年前の想定以上に、社会のさまざまな場面で活用されるようになりました。進化のスピードは非常に速く、データサイエンスの今後は誰も予測できないほど大きな可能性と価値を秘めています。だからこそ、滋賀大学と当センターはデータサイエンスの中核として、常に社会とつながり、時代の先の先を見据えて柔軟かつ真摯に知見を蓄積し未来をリードしていきたいと思っています。

先端研究・社会実装・人材育成をさらに加速

データサイエンス・AIイノベーション研究推進センターでは、大学と企業による専門研究機関を設置しているほか、毎年多くの企業と連携協定を締結し、研究活動を行っています。

滋賀大学×あいおいニッセイ同和損害保険 日本セーフティソサイエティ研究センター

●自動車走行データを事故防止に役立てる

あいおいニッセイ同和損害保険と滋賀大学によるビッグデータ専門研究拠点として、同社が保有する大量の自動車走行データ（運転挙動データを含む）などを用いて、交通事故防止のための研究、ビッグデータの分析技術・有効活用の研究、データサイエンティストの育成教育を行っています。これまでに、道路面の凹凸を可視化する技術を開発しました。現在は事故のリスクが高いエリアを可視化する技術の開発およびイベント開催時の交通渋滞予測シミュレーション、自動運転時のリスク分析にも取り組んでいます。



滋賀大学×帝国データバンク Data Engineering and Machine Learning (DEML)センター

●学生にデータ加工の技術の指導と実践の場を提供

帝国データバンクと滋賀大学が連携し、さまざまな企業におけるデータにまつわる課題解決に取り組み、データサイエンスの高度人材育成を推進しています。例えば、機械学習に用いるデータの加工技術について学ぶ選択科目「データ研磨」を、データサイエンス・AIイノベーション研究推進センター特任准教授（帝国データバンク社員）が指導。この科目を履修した学生は、DEMLセンターで実課題を解決するプロジェクトへの参画を通じてより実践的、かつ高度な知見を身につけることができます。



滋賀大学×日東電工・日東分析センター 滋賀大学・日東電工デジタルイノベーション研究開発センター

●現場技術者と共に新たな技術を開発

高機能材料メーカーの日東電工と材料評価・分析を行う日東分析センターにおいて、DX（デジタルトランスフォーメーション）による企業変革の促進を、データサイエンス・AIイノベーション研究推進センターの研究員と共にめざしています。両社の現場技術者が積極的に研究に参画していることが特徴で、製品や技術を共有することで、従来の産学連携を超えた深い共創を実現。多くの課題解決型の技術開発を行い、発表しています。

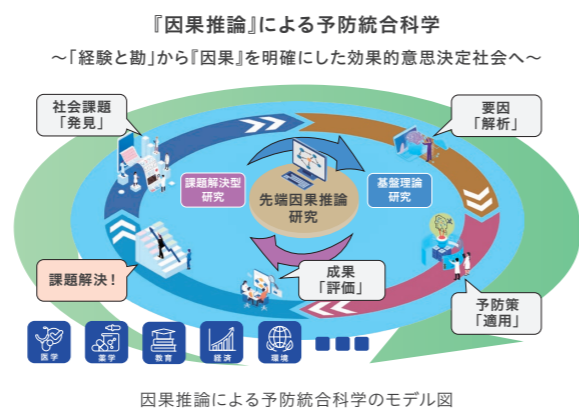
※2026年3月31日現在



先端因果推論特別研究チームを設立

2025年9月、清水昌平先生（卓越教授）をチームリーダーとする「先端因果推論特別研究チーム」を設立しました。12月に開催したキックオフシンポジウムは盛況のうちに終了し、今年1月には滋賀大学が旗振り役となり、学際プラットフォームとして「因果フォーラム」が本格的に始動しました。多様な理論研究を推進するだけでなく、医学や創薬科学、材料科学、社会科学などの分野に応用し、因果AIの力で社会課題を予防的に解決することをめざします。

予防統合科学 (Preventive Integrated Science) :
さまざまな社会課題が解決困難なほどに悪化しないよう、DS・AIを基盤に諸科学が結び付き、効果的に予防策を見いだすための知識体系と方法論。



エイチ・ツー・オー リテイリング株式会社 2025年10月連携協定締結

●2学部が連携し、顧客行動データに基づく共同研究を推進

阪急百貨店や阪神百貨店、食品スーパーの阪急オアシスなど、小売りを中心とした事業を展開するエイチ・ツー・オー リテイリングと連携協定を締結。顧客データを活用したビジネスの開発を掲げる同社が、事業活動において収集したデータを本学に提供し、学生と共に共同研究を行っています。2025年度には、データサイエンス学部は食サービスアプリ「まちうま」のリニューアルに向けたアンケート調査・分析を、経済学部は百貨店の購買データに基づく顧客行動の分析をそれぞれ実施。分析結果から見えた課題に対し、学生自らが具体的な解決策の提案までを行いました。2026年度は、食品スーパーや健康マネジメントサービス「まち健」へと活用領域を拡大し、同社との取り組みをより一層強化していきます。



連携協定締結の様子

世界で注目!

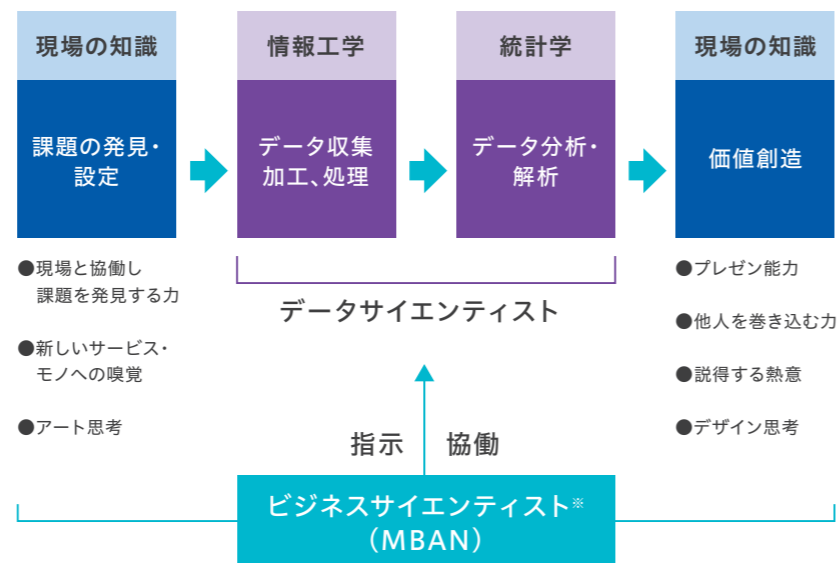
経済・経営 × データサイエンス

経営分析学専攻 = MBANで切り拓く、 これからのキャリア

本学大学院経済学研究科の経営分析学専攻(MBANコース)では、
ビジネスにおける専門的なデータの知見を持つ「ビジネスサイエンティスト」を育成しています。
そしてこの春、初の修了生を送り出しました。
海外のビジネススクールでも注目されているMBANコースの魅力に迫ります。

経営にデータを活かすためのスキルを身につける「MBANコース」

今、ビジネスの現場では、DX化をはじめとする社会の変化に対応でき、新たな価値を生み出せる人材が求められています。
経営分析学専攻(Master of Business Analytics:MBAN)では、経済学と経営学、そしてデータサイエンスを融合的に学ぶことにより、データを活用して社会・組織の課題を理解し、意思決定や価値創造につなげる力を身につけます。
MBANコース修了者は、経営的視点からデータサイエンティストなど他分野の専門家と協働するビジネスサイエンティストとしての活躍が期待されています。



※ビジネスアーキテクト、エンタープライズアーキテクトとほぼ同義。
学部データサイエンスコース履修生も含むが、大学院レベルのプログラムとして経営分析学を設定し、養成。

次世代経営人材として実務で活かせる科目を設置

経済・経営の専門科目と、データサイエンス系の科目をバランスよく学べるカリキュラムを用意。DX時代を意識したビジネスエシックス(企業倫理)科目を設けているほか、演習系の科目では実証的な分析や実務について、理論をもとに取り組めることが特徴です。科目の一部を紹介します。



後藤 良介
大学院経済学研究科 教授
経営分析学特講 担当

経営分析学特講

機械学習、統計学、数理最適化などデータサイエンス領域の手法を活用することで、組織の意思決定に結びつける経営分析学が、世界的に注目されています。この科目では、経営分析の基礎、そして多岐にわたるテーマを扱うことで、さまざまなビジネス分野において横断的にビジネスの課題に対処する能力を養います。

ビジネス・データマイニング特講

企業内に蓄積されたデータからビジネス上の仮説を発見する手法が、ビジネス・データマイニングです。解析にAIの活用が進み、多くの企業で利用されています。講義では企業での実例から利用方法が学べるほか、組織科学や経営学領域の視点からAI時代に求められるデータサイエンティストとしての基礎習得をめざします。

ピープルアナリティクス特講

ピープルアナリティクスとは、企業経営で発生するさまざまなデータから、人材マネジメントにおける意思決定の精度向上や、業務の効率化をはじめとする従業員への提供価値を向上させる手法です。その基礎概念から実務例までを網羅し、実際の運用に必要な分析能力の習得を目標としています。



大学院経済学研究科 経営分析学専攻(MBANコース)の詳細はこちらをご覧ください。

企業でDX化が進まない背景には、「ビジネスの理解」と「データ分析・AI技術」をつなぐ人材の育成が難しいという構造的な問題があり、このギャップを埋め、データドリブン経営を担う人材を育てる点に、MBANコースの意義はあると考えています。私は理論をビジネスの現場で活用できるよう、実務経験がない学部進学者には、理論・技術の学術的な意義を理解することと並行して、企業から提供いただいた実データの分析などによる実践的な学びを促しています。また企業から派遣された学生には、自身の業務に関連する課題設定の方法を学んだうえで、その課題を解くためにデータをどのように活用すれば良いかという視点を重視して指導しています。MBANコースは「データ分析」を共通の軸として、さまざまな背景を持つ学生たちが集う「協学の場」です。異業種の横のつながりを得ながら、世代間ギャップの克服にもつながることも期待しています。



山下 優貴さん
学部卒入学

【在学生の声】 分析にとどまらないデータの活用法が身についた

学部では計量経済学を専攻し、マクロ経済データを扱う研究に取り組んでいました。一方で、経営課題の解決により強い関心があったため、ビジネスに特化したデータサイエンスを学べるMBANコースに進学。入学後はデータサイエンス研究科のサポートのもと、統計学から機械学習・大規模言語モデルまで、課題解決の手法の幅を広げることができました。また、経済・経営の専門科目では、社会人院生の方々の議論を通じて、「分析結果をいかに意思決定へつなげ

るか」という視点を養いました。研究やその他のプロジェクトにおいても、ビジネスインパクトを意識して議論できるようになったことは大きな成長です。業界や職種異なる院生の皆さんの経験を元に、学びをビジネスの文脈で捉え直すことは、MBANの大きな魅力だと感じています。修了後はコンサルティングファームでデータ・AIを活用した課題解決に取り組み、価値創出できる人材をめざします。



加藤 菜摘さん
株式会社関西西みらい銀行
派遣社会人入学

【修了生の声】 自社での活用を意識してスキルを磨く

勤務先でDXやデータ活用の重要性が認識され始める中、派遣社会人としてMBANコースで学ぶことになったものの、データサイエンスの専門知識はなく、不安を感じながらのスタートでした。そんな中、「意思決定とデータサイエンス」という科目で、実務では分析結果が十分に活かされないことがあるという現実と、その解決には手法の高度さよりも分析前の課題設定が重要であることを学びました。他分野の履修やその後の研究、さらには実務での活用においても、

私の指針となっています。「経営分析学特講」では、単なる知識の習得にとどまらず、実践的な課題を通して思考力を鍛えることができたのが印象的で、常に「自社でどのように活用できるか」を意識しながら学ぶことができました。MBANコースで得た知識や考え方、そしてネットワークを活かしながら、現場の状況に即した形でデータ活用を進めていきたいです。

しがだい Challengers

学びに課外活動、そして将来にむけてと
挑戦を続ける3名の学生を紹介します。



経済学部
木田 直歩さん
伊勢高校(三重県)出身



My challenge

海外 インターン シップ

ガーナで働く中で 掴んだ突破口

世界のどこでも働ける人間になりたいという思いから、1年間大学を休学し、留学と海外インターンシップに挑戦しました。まず、アイルランドの語学学校で5か月間、実践的な語学力を強化。その後、ガーナに渡航し、現地のコーヒー豆を扱う企業で、3か月間のインターンシップに挑みました。

現地の文化、嗜好をもとに 工夫を重ねて新規顧客を開拓

ガーナのコーヒー生産は非常に小規模で、加工・ブランド化が進んでおらず、国内に付加価値が残りにくいことが課題でした。そこで、製品の高付加価値化と共に、所得向上と地域経済発展に少しでも貢献することを目標に、地元飲食店への営業、イベント企画などを担当しました。しかし、ガーナにはコーヒー文化が浸透しておらず、当初は門前払いの連続。そこで、現地の嗜好に合わせた提案に舵を切り、抹茶コーヒーやコーヒーゼリーなど、自社豆を使った新メニューを自ら開発した結果、新規顧客を獲得することができました。

思い通りにいかない環境でも、試行錯誤しながら突破する力が身についたことが、最大の成果です。今後も、何事も楽しむことを忘れずに、新興国と日本双方にとって持続可能な事業につながるチャレンジを続けたいと思います。

(滋賀大の好きなところ)

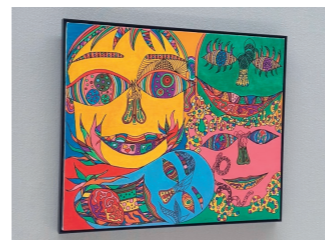
彦根キャンパスは琵琶湖や彦根城の近くにあり、落ち着いた環境の中で学問や部活動に打ち込めるのが気に入っています。

My challenge

公募展への出展

試行錯誤を重ねた作品が洋画部門で入選

第6回「ぎふ美術展」において、洋画部門で入選をいただきました。「ぎふ美術展」は岐阜県が主催する公募展で、日本画、洋画、彫刻、写真などの多様な部門を設け、全国から幅広く作品を募集する展覧会です。入賞、入選作品は会場で一般公開されるため、多くの方に鑑賞いただくことができました。私は現在、中等教育コース美術専攻で、美術を専門的に学んでいます。今回の出品作品は、専門科目の一つである絵



(滋賀大の好きなところ) 困ったことを気軽に相談することができるくらい、先生との距離感が近いです。いつも親身になって対応してください。

画の授業で制作したものです。授業外の時間も含め、約1か月かけて制作に取り組みました。これまで自分が取り組んできた中で最も大きなキャンパスに挑戦し、何度も描き直し、試行錯誤を重ねて完成させました。

教育には自身の制作も 必要なことを実感

制作過程では苦勞もありましたが、それ以上に楽しさや達成感を味わうことができました。また、自ら制作に深く関わる体験をすることが、美術を教える立場になるうえで欠かせない学びであることも実感しました。これからも制作を重ねながら表現の幅を広げ、美術教育に携わる者としての視点や美術の力をより確かなものにしていきたいです。



教育学部

大野 結菜さん 加納高校(岐阜県)出身

My challenge

学業と部活動の両立

幹部として部を盛り上げ、自身の学びも深める

私は少林寺拳法部に所属し、全日本学生大会での入賞、関西学生新人大会での優勝をめざして、日々練習しています。2024年には関西学生新人大会白緑帯の部で優勝しました。現在は幹部として練習体制を見直す中で、体系的な練習システムを確立している強豪校との差を痛感。他校の研究や自身の経験を活かし、部の練習メニューの改善に取り組んでいます。

タイでの研修が キャリアを見つめ直す機会に

学業面では「統計的因果探索」の相関ではなく因果を科学的に追い、意思決定に直結する点に魅力を感じ、創業分野への応用をめざして勉強を進めています。大学院進学を考えているため、必要な資格(基本情報技術者試験、

統計検定準1級、TOEIC)の勉強にも励んでいます。また、滋賀大学のタイ・スタディツアーに参加し、現地の学生の英語力や開発力に刺激を受けました。タイの学生とは今も連絡をとりあい、親交を深めています。多様な背景をもつツアーメンバーとの交流や企業訪問、OB訪問を通して、自分のキャリアを見つめ直す転機となりました。部活動に学業に、何事にも妥協せず取り組んでいきたいです。



(滋賀大の好きなところ) 学生数が少ないため、自然と交流が生まれるところ。勉強スペースで顔見知りが増え、自主ゼミでは学年を超えて学生間の仲が深まります。



データサイエンス学部

宮本 かぐらさん 膳所高校(滋賀県)出身

輝く卒業生たち

湖南省立三雲小学校
や た ひとし
矢田 仁さん

Profile

滋賀県出身。2025年3月教育学部初等教育コース初等教科専攻算数専修卒業。同年4月湖南省立三雲小学校に着任。学生時代はバドミントン部に所属し、OBとの練習と交流で磨かれたコミュニケーション力は、学級運営にも大きく活かされている。学生時代を共に過ごした親友は隣の小学校の教員となり、互いに刺激し合う存在。学校への信頼と安心を高めるため、「学級通信」の作成にも力を入れることが目標。

小学校時代のあこがれの恩師のように 児童にも保護者にも信頼される教員をめざす

地元で教員になるために 縁もあった滋賀大学に進学

小学5年生の時の担任の先生にあこがれて教員をめざしました。先生は勉強はもちろんのこと、休み時間は一緒に遊び、何でも相談ののってくれ、さらには学級での出来事や児童一人ひとりのがんばりを記した学級通信を保護者にほぼ毎日配布するなど、熱心に向かい合ってくれました。このことがずっと心に残り、先生のようになりたいと思いました。滋賀県で小学校の先生になりたかったので、県内での採用率が高い滋賀大学教育学部を志望しました。また、私は父方・母方の祖父母が教員という家庭に育ち、さらに母方の祖父母が滋賀大学教育学部出身で、あこがれの先生も卒業生だったことも進学を決める後押しになりました。

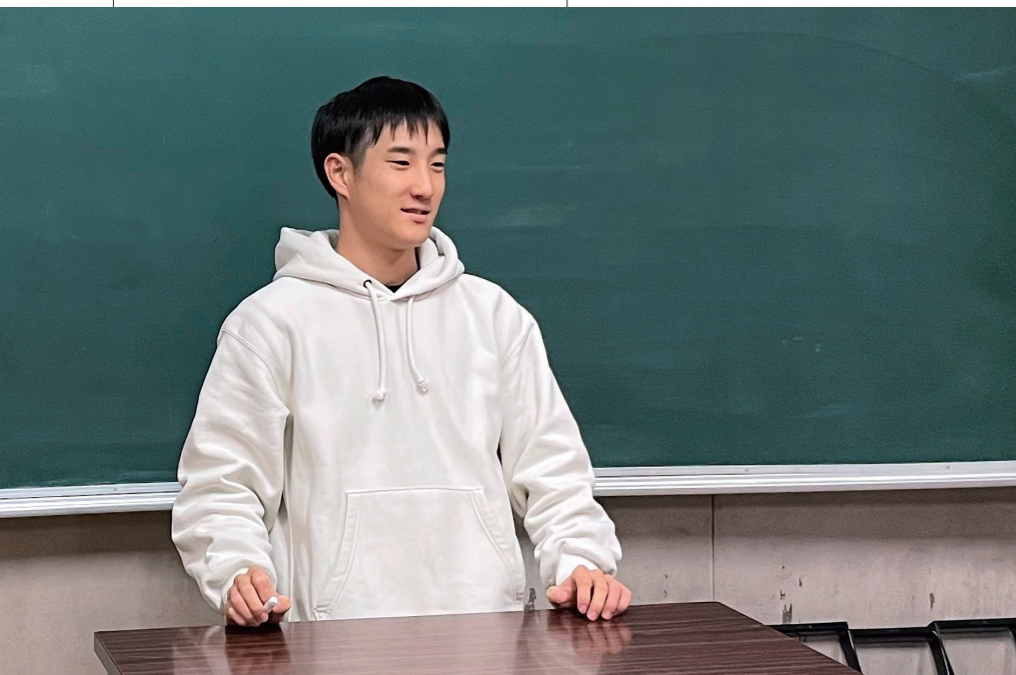
数学の研究で養った思考が 学習計画の糧に

大学では得意科目の算数を専攻し、長谷川武博先生のゼミで研究にも打ち込みました。テーマは四次元以上の高次元空間を数と構造を手がかりに三次元、二次元で捉える研究です。単に解を求めるのではなく、なぜその理論に至るのかをロジカル、クリティカルな双方から考えることを学びました。教員になった今、この思考習慣は授業を計画する際に「この説明で理解できるのか」「板書で提示した図解は視覚的に有効なのか」など、指導方法を児童目線でも見つめ直すことにつながっています。在学中、近隣の小学校で学習・生活の支援や、校外学習に帯同するボランティアをしたことも、教育現場における教員の役割や児童の様子を知るうえで有効な経験となりました。



教育学部出身の先輩たちを モデルに教員として成長

教師1年目の昨年は、4年生の担任という挑戦から始まりました。高学年へと成長していく第一段階で、学習内容もクラス内の社会性や人間関係も深くなっていく時期です。指導の難しさも実感しましたが、児童と一緒に成長していこうと日々奮闘した1年でした。そんな中でうれしかったのは、算数が苦手な子に算数を学ぶ意味と大切さを丁寧に伝え、前向きに取り組んでくれるようになったことです。また、お楽しみ会で私への感謝の手紙を読み、サプライズの寄せ書きを贈ってくれたことは、今後も忘れたくない思い出です。めざすのは児童に寄り添い、保護者にも信頼される教員です。そのためには授業や指導の質をさらに高めることが必要ですが、勤務先の小学校には滋賀大学出身の先輩が在籍しているので助言をいただいています。また、今も教壇に立つあこがれの先生は、何かと相談できる心強い存在です。周囲にロールモデルが多いことも、滋賀大学教育学部で学べてよかったと思います。



Profile

株式会社ARISE analytics
いしづかりょういち
石塚 諒一さん

神奈川県出身。2014年3月北海道大学文学部人文科学科卒業。同年に入社した企業での勤務を経て、2019年日立造船株式会社に入社、2021年、社会人派遣で滋賀大学大学院データサイエンス研究科博士前期課程入学、2023年3月修了。現在は株式会社ARISE analytics※にてマーケティング分野におけるデータ活用プロジェクトの推進を担う。

※KDDIと外資系コンサルティング会社アクセンチュアの合併によるデータサイエンス会社

文系学部からデータサイエンス分野への キャリアチェンジと研究継続の双方を実現

データサイエンスの 可能性にかけて挑戦

大学卒業後に就職した企業では管理部門に所属し、仕事も生活も安定していましたが、一方で新たな分野に挑戦したい気持ちが湧き上がりました。その時、着目したのが世の中で機運が高まっていたデータサイエンスでした。学生時代に専攻していた心理学の研究で統計学を活用し、一定の知識があったことから、データサイエンティストへの転身を決意。転職先では社内のデータ活用推進やデータ分析基盤の構築などに従事しました。実務と自学で知識を積み重ねていきましたが、第一線で活躍するには、より高度な専門性が必要と実感。修士号取得にも関心があったため、企業からの「派遣社会人枠」を利用して、滋賀大学大学院データサイエンス研究科へ入学しました。



手厚いサポートのもと 自社の課題解決を追究

研究科では、方針として、社会でのデータ活用と価値創出に主眼が置かれており、社会人学生は自社の課題を研究テーマにすることが出来ます。私は会社で携わっていた風力発電の異常検知を深層学習により高度化するAI研究に打ち込みました。アカデミックな環境も整っており、実際に私は複数回の学会発表を経験し、その中で奨励賞もいただくことができました。

また、講義はオンラインが中心だったので仕事と両立しやすく、担当教員の河本薫先生をはじめとする先生方への相談により研究を深化したり、他分野で働く社会人派遣の研究仲間とつながれたことも、大きな財産となりました。修了後も、滋賀大学データサイエンス・AIイノベーション研究推進センターの客員研究員として、研究と後進の指導にあたっています。

データによる課題解決から 課題創出のフェーズへ

現在は、株式会社ARISE analyticsにて、KDDIのマーケティング施策高度化プロジェクトのリーダーを務めています。KDDIは通信事業を軸に、金融や流通といった多種多様な事業を展開しています。これらサービスの膨大な顧客データを活用し、

各サービスへの誘致・利用促進を図る仕組みを、機械学習を活用することで実現しています。私は当該プロジェクトのリーダーとして、顧客折衝や評価指標設計から、モデルのコードレビューなど実装までを一気通貫で行っています。私は以前から、現実社会の課題とAIをはじめとする技術をつなぐ業務に携わりたいという思いがありました。今は担当した施策が世の中や人びとに適用され、成果を上げていくことにやりがいを感じています。今後は段階を上げて、課題の探索などゼロから案件そのものをつくることも考えています。この時、研究科で得た知見や河本先生に指導いただいた課題の抽出や定義の手法が役立つはず。研究科での学びにより文系出身でも、このようなキャリアを築くことができました。あのとき、一歩踏み出してよかったと思います。



独立行政法人国際協力機構 (JICA)
わた なべ たい よう
渡辺 太陽さん

Profile ※学科名称は卒業当時。

大阪府出身。2025年3月滋賀大学経済学部ファイナンス学科※卒業。同年4月独立行政法人国際協力機構 (JICA) に就職、東南アジア・大洋州部東南アジア第三課配属。ベトナム国を担当し、下水道施設建設の立ち上げなどに携わる。学生時代はラグビー部に所属し、徳聖寮の寮長を務めたほか、環境保護サークル「マスターネイチャー」を創設。そのメンバーは無二の友。

滋賀大学での出会いが導いてくれた よりよい世界をつくるための道

滋賀での環境保護活動を 機にタンザニアへ

進学と同時に滋賀大学の学生寮・徳聖寮で生活を始めた私は、琵琶湖をはじめとする滋賀の自然に瞬く間に魅せられました。時間を見つけてはキャンプや釣りなどを楽しむ一方で、湖岸に漂う大量のゴミに愕然として、大学の友人2人と共に環境保護サークル「マスターネイチャー」を立ち上げました。彦根市の地域伝承から着想を得て「カッパのニラミ」というオリジナル紙芝居を作り、地元の子もたちに琵琶湖の美しさとゴミ問題を伝える活動に取り組みました。これを機に、自然保護は私の学びの核となりました。大学3年生の時には、2050年の脱炭素社会の実現をめざしてエネルギー問題や気候変動、持続可能な社会について考える研修プログラム「グリーン・イノベーター・アカデミー」に半年間参加して、脱炭素やエネルギー問題について学びました。さらに、電気が自由に使えない国や地域の現状を知るために、官民共同の留学支援プロ

ラム「トビタテ! 留学JAPAN」を利用して、アフリカ東部・タンザニアでのインターンシップに挑戦。未電化地域での太陽光パネル設置事業に携わりました。トウモロコシなどを加工する工場に電気が灯った瞬間、現地の人たちから歓声が上がりました。安定した電気があることで生活の負担が軽減し、やりたいことをかなえられる。人々の生活そのものを支える力を持つインフラ整備の重要性を改めて実感しました。

ベトナムの未来のために 基礎を築くことがミッション

国際協力機構 (JICA) で働くことを選んだのは、日本の技術や経験を活かして、それを必要とする国の未来を真剣に考える事業に惹かれたからです。現在はベトナムを担当し、水環境分野や金融分野の事業に携わっています。国内の多くでは、いまだに下水道が未整備で、生活排水が川へじかに流れ込み、人々の暮らしや環境に影響を及ぼしています。私の任務は、



下水道処理施設や排水管整備に必要な予算や整備方針について、ベトナム政府と日本政府、企業と交渉・調整を行い、ベトナムの発展に必要な事業を進めていくこと。そのためには、ベトナムの歴史、文化、社会、制度、そして土木工事の方法や影響に至るまで、膨大な資料を読み解く必要もあります。当初は締め切りのある書類をこなすだけで精いっぱいでしたが、「一つひとつの仕事に魂を込めろ」という職場の先輩の助言を胸に、両国の人々や自然、そして未来を守ることが私の使命だと思い、仕事に打ち込んでいます。

人生の師からの学びが 自らの強みに

今の道を切り開くことができたのは、滋賀大学での4年間のおかげだと思っています。特に、所属ゼミの宮西賢次先生 (専門分野は管理会計) から大きな影響を受けました。ゼミで鍛えられた財務諸表分析や管理会計などに関する知識、英語でのコミュニケーションが仕事に役立っていることは言うまでもありません。また、何事にも情熱的に取り組まれる先生の姿勢や言葉は、私の名前である「太陽」の通りに明るく力強く、前に進むための原動力となっています。これからも滋賀大学での学び、先生や友人、地域の方との縁を大切に、誰もが豊かに生きやすく、美しい自然に恵まれた未来を築いていくことが目標です。

活躍する研究者たち

Researcher's File

現象の背景を探る数理統計学の知見が、 社会に役立つ研究を支える

笛田 薫 Fueda Kaoru

データサイエンス学部教授。博士 (数理学)。研究分野は数理統計学。2017年に着任し、2024年からは滋賀大学データサイエンス・AIイノベーション研究推進センターの副センター長も務める。

Q. 専門の「数理統計学」について 教えてください。

データをもとに、数式を使って未来を推測するのがこの分野の特徴です。例えば、受験期によく耳にする偏差値は、テストの点数というデータをもとに「自分が全体の中でどの位置にいるか」を数式で表したものです。これは単なる平均ではなく、点数のばらつきを考慮して位置づけを推定する仕組みです。模試で同じ点数を取った受験生でも、本番の出題内容によって結果が分かれることがあります。こうした不確実性から「合格確率〇%」と推定するのが、まさに数理統計学の推測の力です。また、その「ばらつき」の背後にある仕組みを捉えることが、この分野の役割。社会に役立つ研究の基礎を支える立場だと思っています。

Q. なぜ、この分野に進んだのですか？

学生時代から数学に親しみ、物事を整理し、筋道を立てて考えることに自然と惹かれていきました。大学では理学部数学科に進学し、数学のさまざまな分野を学ぶ中で、次第に現実の事象と結びついた分野に関心を持つようになりました。学生時代にゲームに親しんでいたことがあり、「こうすると成功しやすい」「この条件だと確率が上がる」というような感覚的なコツを、友人たちと共有していました。それらをまとめて数式や法則として整理すると、現象が分かりやすく説明できることにおもしろさを感じたことを覚えています。その経験が、数学の中でも現実にもっと近い分野である数理統計学に関心が向くきっかけになったのだと思います。

先生がいま、夢中なこと

趣味はいろいろあります。車を運転することが好きで、若いころはレースに出ていたことも。そこでは車の挙動を、物理法則を表す数式で考えていました。あとは写真撮影。昔のデジタルカメラは暗いところで撮影するとノイズが混ざるので、そのノイズを含む画像からもとの風景を推定することもあります。このように趣味にも数式や数学に落とし込んでいるのですが、そこもまた興味深く感じています。



取材を終えて

「数理統計学」がさまざまな事象を考慮して未来の予測を行うための大切な手法であり、身近なことにもその考え方が活かされることを知りました。AIとのかかわり方について、「大事なのは“機械に使われる側”ではなく、“機械に指示を出す側”になること」という言葉は、社会に出ていく私たちの指針になると感じました。

- 勝川 譲さん**
経済学部
石山高校 (滋賀県) 出身
- 岡本 紗穂さん**
経済学部
堅田高校 (滋賀県) 出身
- 告坂 美輝さん**
データサイエンス学部
香住丘高校 (福岡県) 出身
- 保田 知樹さん**
教育学部
金蘭千里高校 (大阪府) 出身

●この取材は、「学生広報サポートチーム」が担当しました。詳細はP2をご確認ください。



Study abroad

滋賀から海外へ 留学体験記

海外で学ぶための制度には、半年から1年にわたって海外の交流協定校で学ぶ「交換留学」と約1ヵ月間、外国語や海外文化を学ぶ「短期海外研修」があります。海外での学びを終えた2名の学生から体験記が届きました。



武波 結さん 経済学部
神戸高校(兵庫県)出身



小学生に日本語や日本文化を教える企画を運営

韓国語だけの授業にも挑戦 日本語との比較で、より深い学びに

●交換留学(2025年3月~12月)

中学生の頃から留学に興味があり、その後、地理的にも言語や文化の面で日本と近い部分を持っている一方で、大きな違いもある韓国に興味を湧き、韓国留学を決めました。滋賀大学は留学の情報が学外からも得やすく、入学の決め手の一つにもなりました。留学先の啓明大学では、春学期は海外から来た学生のために開講されている科目を主に受講し、さまざまな国や地域から学びにきた学生たちと、韓国語でコミュニケーションをとる機会に恵まれました。秋学期は韓国人学生や4年間啓明大学に在学する留学生のための科目を受講。韓国語による授業において、ほぼ唯一の交換留学生だったため、毎回のように教授から韓国語と日本語の共通点や相違点を聞かれたことで、より深く考察しながら、授業に積極的に参加することができました。大学での学び、ルームメイトとの交流で、異なるバックグラウンドを持つ人と直接関わる経験の貴重さを感じました。



キャンパスの様子

Advice 留学準備

留学先での取得単位が
滋賀大学で認定されない
場合があると聞き、
留学前にできるだけ多
くの単位を取りました。



キャンパスで共に学んだ仲間



竹下 浩平さん 教育学部
宮津高校(京都府)出身



英語を教える立場になるからこそ 経験しておきたかった海外での時間

●短期海外研修(2025年2月~3月/4週間)

海外で英語を話す経験をしてみたかったこと、そして他国の文化や生活を体験し、価値観に触れることで、自分の考え方を見つめ直したいと思い、留学を決めました。授業はスピーキングとライティングを強化する内容で、メルボルン市内のさまざまな観光地に赴き、現地の人とコミュニケーションを取りながらスピーキング力を高めることができました。また、ライティングの授業では、エッセイの書き方を一から学び、社会問題について自分の意見を英語で表現できるようになったことが収穫です。留学中のホームステイ先の家族が日本文化に興味があり、アニメや生活様式などを通じて交流を深められたことも思い出深いです。短期海外研修を通じて、海外の人とコミュニケーションをとる素晴らしさを実感しました。私は中学校英語教員をめざしています。将来は教員としてその魅力を生徒たちに伝え、英語の勉強が楽しいと思ってもらえる授業を行いたいと思います。



メルボルン近郊の動物園
ではコアラが目の前に

Advice 留学準備

ホームステイや留学先の
学校の情報、パスポートの
取得など、不安なことが
あると国際交流課で相談
していました。

●留学や短期海外研修の相談は国際交流課まで E-mail: kokusai@biwako.shiga-u.ac.jp

奮励努力を胸に めざすのは全日本学生大会

▶彦根キャンパス・大津キャンパス

剣道部

剣道部は、彦根キャンパス・大津キャンパスの両キャンパスから集まった12名で活動しており、学部や学年を超えて互いを高め合う温かい雰囲気の特徴です。私たち第74代剣道部は、「奮励努力」を活動理念に掲げ、全日本学生大会出場を目標として日々稽古に励んでいます。

平日は各キャンパスの武道場で基本技を中心に鍛錬し、週末にはどちらかのキャンパスへ集まって合同稽古を行うほか、他大学との練習試合を通して実戦力の向上にも取り組んでいます。技術面だけでなく精神面の成長も重視し、少人数ながら一人ひとりが強い熱意をもって努力を重ねていることが大きな強みです。

2025年度はさまざまな大会に出場し、実戦経験を積んできました。2026年度も引き続き全日本学生大会出場をめざし、部員一同、挑戦を続けていきます。剣道を通じて育まれる学年を超えた絆は、大学生活を送るうえで大きな心の支えとなる魅力の一つです。



日々の稽古と学外での取り組みを通して、全日本学生大会をめざしています

2025年度の活動

- 京滋学生剣道大会出場
- 関西学生剣道優勝大会出場
- 西日本学生剣道大会出場
ほか

2026年4月以降も合同稽古や練習試合を予定しています



pick up CLUB & CIRCLE

120以上ある課外活動の団体から、2団体を紹介します。

学内外のイベントに参加、 VRChatの活用も計画

▶彦根キャンパス

パソコン・ボカロ同好会

私たちは、ボカロに関する創作活動や推し活、パソコンを使った活動を行うサークルです。普段は、楽曲紹介やイラスト制作、ボカロクイズなどの活動をしています。また、MMDライブの開催、「マジカルミライ」などのイベントにも参加しています。

活動開始2年目となる2025年度は活発化をめざして、多くの新しい活動を始めました。その一つが、イラスト本の頒布を目標とする「100日チャレンジ」です。これは毎日、イラストを描き続けて画力の向上をめざす企画で、200日を超えてもなお描き続けているメンバーも複数名います。努力の甲斐あって「コミックマーケット107」に参加し、イラスト本やアクリルキーホルダーを制作・販売することができました。この他にも、オリジナル3Dモデルの作成や他大学との交流、楽曲制作なども始めました。今後の新規活動としては、VRChatを活用した活動を計画しています。興味がある方は、SNSをご確認ください。



2025年度は「コミックマーケット107」(写真上)や、「マジカルミライ」への参加などの活動を行いました

2025年度の活動

- 新歓ライブの実施
- 滋賀大祭での展示・MMDライブの実施
- 「giving campaign」での広報活動
- 12月18日 他大学との交流会実施
- 12月31日 「コミックマーケット107」参加
- 2月 「ボカコレ2026年冬」参加

最新情報はこちらから

✉ @shiga_u_v Instagram @shiga.univ.vocaloid



ニュース & トピックス

滋賀大学の最新ニュースを
YouTubeで毎週、発信しています。



滋賀大学の学術的な取り組みや行事についてご報告します。
最新情報は随時、本学公式YouTubeチャンネル「滋賀大学」でも発信しています。こちらをご覧ください。

第59回「滋大祭2025～柳緑花紅～」を開催

□経済学部 □データサイエンス学部

2025年10月25日・26日、彦根キャンパスで第59回「滋大祭2025～柳緑花紅～」を開催しました。
ステージでは、アカペラサークルや軽音楽部によるライブ、彦根にゆかりがあるご当地キャラクターの登壇、大抽選会など、さまざまなプログラムを披露。学内ではお茶席、日本文化とジェンダーをテーマにした展示、模擬店といった、多彩な催しも行われ、多くの来場者でにぎわいました。
滋大祭実行委員や各学生団体の活躍、ならびに地域の皆さまのご協力を得て、盛大かつ安全に開催することができました。



滋大祭ウェルカムゲート

教育学部創立百五十周年記念式典を挙行

□教育学部

2025年11月8日、大津キャンパス教育学部大講義室で「教育学部創立百五十周年記念式典」を挙行了しました。
竹村彰通学長のチェンバロ独奏、近江シンフォニエッタ室内アンサンブルの演奏、ならびに教育学部の馬淵哲教授の映像演出による「祝賀演奏」で開式し、続いて、文部科学省高等教育局長の合田哲雄氏、滋賀県教育委員会教育長の村井泰彦氏、および大津市長の佐藤健司氏から祝辞をいただきました。
同日には、祝賀会・懇談会およびホームカミングデーも開催され、笑顔と拍手に包まれた、記念すべき一日となりました。



式典の様子

国際シンポジウム「CDOIQ-Japan」を日本初開催

□全学部

2025年12月4日・5日、情報の利活用と品質をテーマとする国際シンポジウム「CDOIQ-Japan」が、滋賀大学主催のもと日本初開催されました。
1日目はびわ湖大津プリンスホテルにおいて、竹村彰通学長とCDOIQ エグゼクティブディレクター Richard Wang氏による開会挨拶の後、ロボットクリエイターの高橋智隆氏や画家の真田将太郎氏による特別講演、パネルディスカッションなどが行われました。
2日目は会場を彦根キャンパスに移し、LINEヤフー株式会社シニアストラテジストの安宅和人氏による基調講演や国内外の企業による多数の講演を実施し、DXの最新動向、AIの活用、データ品質やガバナンスに関する実践など、専門的知見に基づき幅広く議論が展開されました。



Richard Wang氏による開会の挨拶



滋賀大学へご支援のお願い

本学では『滋賀大学基金』を設置し、学生の教育研究、国際交流、修学支援、課外活動、データサイエンス教育研究の高度化など、滋賀大学を幅広く支えていただくご支援をお願いしています(税制上の優遇措置の対象です)。皆さまの温かいご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

『滋賀大学基金』の種類

一般基金	・学生の教育・学習支援、国際交流事業など、大学全般に対する幅広いご支援
(以下、特定基金：特定の事業へのご支援)	
データサイエンス・AIイノベーション・commons形成基金	・データサイエンス・AI分野のイノベーション・commons(共創拠点)を形成するためのご支援
修学支援事業基金	・経済的な理由で修学が困難な学生に対するご支援(税額控除選択可)
スポーツ・文化活動基金	・学生の課外活動に対するご支援(特定の大学公認学生団体を指定可)
データサイエンス基金	・データサイエンス領域の教育研究活動等に対するご支援
経済学部基金	・経済学部における教育研究活動等に対するご支援
経済学部基金(史料館)	・経済学部附属史料館の史資料の保存・活用に対するご支援
教育学部基金	・教育学部における教育研究活動等に対するご支援
附属学校園いまを生きる基金	・教育学部附属学校四校園の教育環境整備充実をはじめ教育活動に対するご支援
藤村泰子記念基金	・障害児者の音楽教育・音楽活動に対するご支援

税制上の優遇措置が受けられます

個人からの滋賀大学へのご寄附は、確定申告していただくと税制上の優遇措置を受けることができます。
また、「修学支援事業基金」では、個人からのご寄附に限り、「所得控除」と「税額控除」のいずれか一方の有利な方を確定申告の際に寄附者様が選択できます。

詳しくは、右の文部科学省寄附ポータルサイト「個人が寄附した場合の税制上の優遇措置」をご覧ください。

文部科学省
寄附ポータルサイト



滋賀大学基金ニュース

●ご寄附による活動報告(一般基金)

物価高に挑む「10円ライス」学生支援事業を実施

米をはじめとする食料品価格の高騰により、下宿生など経済的に困窮する学生の生活支援の一環として、一般基金を活用して彦根・大津の両キャンパスにある大学生協食堂で、サイズを問わずライス1杯を10円で提供する「10円ライス」の食の支援事業を、2025年10月14日から11月3日まで日本学生支援機構、JA全農しが、大学生協の協力で実施しました。
一般基金では、その時々に必要な学生への支援事業を実施しています。



〈お問い合わせ先〉 滋賀大学基金室(総務課)

〒522-8522 滋賀県彦根市馬場1丁目1番1号
TEL 0749-27-1004 FAX 0749-27-1129
E-mail kikin@biwako.shiga-u.ac.jp

詳しくは滋賀大学基金ホームページをご覧ください。

<https://www.shiga-u.ac.jp/kikin/>

